# 景観フォーラム

# 巻頭言

ソビエト連邦(ソビエト社会主義連邦共和国)にあこがれた戦後生まれ(1952年)の青年が KGB(国家保安委員会)で辣腕を振るい、やがて政治家となった。その名はウラジーミル・プーチンである。20 世紀で最も有名な政治家がかのアドルフ・ヒトラーとすれば、21 世紀でこれからも忘れられない政治家となるのはこのロシアの小男(身長167cm)ウラジーミル・プーチンかもしれない。それも歴史の中で自己陶酔狂になってしまった政治家としてである。あの美しいウクライナの諸都市を惜しげもなく破壊しつくして、自分は第二次世界大戦の中で生きている英雄のようである。

ロシアという国を考えるとき、矢張り『戦争と平和』の大文豪トルストイ、人間の究極的存在を問い詰めた『罪と 罰』『カラマーゾフの兄弟』を著したドストエフスキー、そして優雅な曲と夢を与えてくれたチャイコフスキー、ロシ アは芸術の宝庫であり、即ち人間性の宝庫であるはずである。それがまた、なんというか、暴力一筋のプーチンという 人間を生み出してしまった。彼は日本の柔道を愛しているらしいが、残念ながら柔道の力は知っていてもその力の源泉 である武士道は知らないらしい。柔道の精神を知らずして柔道をやると今回のようなウクライナへの暴挙となってしまうのか、誠に残念である。東ヨーロッパの中心都市である古都キエフを破壊したいのか。破壊こそがプーチンお前の人生か。創造する力を無くしてしまった政治家は退場してもらうしかないであろう。

そして、ロシアに生きる青年たちよ!この小男に騙されてはいけない。この男はファウスト気取りをした単なるメフィストフェレスに過ぎない。それも常軌を失ったとんでもない悪魔である。そのような思想なき人間を政治家と認めてはならない。本来の豊かさを求めて、さあ立ち上がってほしいのだ。

ウラジーミル・プーチンよ!貴殿はもう既にこの世界で生きている意味はない。いろいろな理屈をこねまわして世界をかき回したいのかもしれないが、貴殿は時代遅れの道化でしかないのだ!どうか、どうか静かにこの 21 世紀の歴史の舞台から退場してほしい!それも自分の力で!

NPO 法人日本景観フォーラム理事長 斉藤全彦

#### く日本景観フォーラム 2022 年度年間スケジュール>

\*2022 年度とは 2022 年 4 月 1 日⇒2023 年 3 月 31 日のことです。

#### 2022年

- 4月19日(火)於ネット会議 第1回景観研究会
- 5月20日(金)第1回景観まちあるき(神宮外苑・表参道)
- 6月21日(火) 於ネット会議 第2回景観研究会 第1回理事会
- 7月30日(土)第2回景観まちあるき(検討中)
- 8月30日(火) 於ネット会議 第3回景観研究会
- 9月24日(土)第3回景観まちあるき(検討中)
- 10月25日(火) 於ネット会議 第4回景観研究会
- 11月26日(土)第4回 景観まちあるき(検討中)
- 12月20日(火)於ネット会議第5回景観研究会

# 2023年

- 1月28日(土)第5回景観まちあるき(検討中)
- 2月21日(火)於ネット会議 第6回景観研究会 第2回理事会
- 3月25日(土)第6回景観まちあるき(検討中)
- ■以上のスケジュールは、ご提案ですので随時皆様のご意見を反映してまいります。

# く日本景観フォーラム 2021 年度年間スケジュール実績>

\*2021 年度とは 2021 年 4 月 1 日⇒2022 年 3 月 31 日のことです。

#### 2021年

- 4月20日(火) 於ネット会議 第1回景観研究会(コロナ禍の景観1)
- 5月25日(火) 於ネット会議 第2回景観研究会 (コロナ禍の景観2)
- 6月29日(火) 於ネット会議 第3回景観研究会 (コロナ禍の景観3) 第1回理事会
- 7月27日(水) 於ネット会議 第4回景観研究会 (コロナ禍の景観4)
- 8月31日(火) 於ネット会議 第5回景観研究会(コロナ禍の景観5)
- 9月27日(月) 於ネット会議 第6回景観研究会 (コロナ禍の景観6)
- 10月23日(土)第1回景観まちあるき(等々力渓谷)
- 11月27日(土)第2回景観まちあるき(江戸東京たてもの園)
- 12月18日(土)第3回景観まちあるき(大磯町・忘年会)
- 12月21日(火) **於ネット会議 第7回景観研究会**(コロナ禍の景観7)

#### 2022年

- 1月22日(土)第4回 景観まちあるき(神宮外苑)⇒延期
- 2月22日(火) 於ネット会議 第8回景観研究会 (コロナ禍の景観8) 第2回理事会
- 3月23日(水)第5回景観まちあるき(神宮外苑)
- 3月25日(金)於ネット会議 来年度年間スケジュール検討会議
- ■以上のスケジュールは、ご提案ですので随時皆様のご意見を反映してまいります。

# 大磯まちある記

野田路人

昨年末、コロナ感染の第5波が収まり、会の活動も元に近づくと期待が膨らんだ、12月18日(土曜日)にまちあるきを実施しました。

東京から距離にして 60~70 k m位、電車を利用し約 1 時間位で行け、今まであまり訪れたことの無い幾つかの候補地から年末の気温も考慮し、比較的温暖と思われる「大磯」に決め、当日、大磯駅にメンバー 5 人が参集しました。

#### <大磯町について>

大磯は、吉田茂邸宅が有ること位しか知識がありませんでしたが、今回町の概要を調べると、神奈川県の中央南部に位置し、南は相模湾、北は高麗山や鷹取山をはじめとした大磯地塊の丘陵地帯でなどの豊かな自然が暮らしの場に近接し、北と東は平塚市、西は二宮町と境を接し、東西約7.6 キロメートル、南北約4.1 キロメートルのやや東西に長い形をしています。江戸時代の宿場町で市街地は旧東海道の国道1号沿いの平坦部に形成され、まちの65%を丘陵、気候は海岸沿いに流れる暖流の影響で温暖と言われています。

明治 18 (1885) 年に、初代・陸軍軍医総監を務めた松本順が、西洋医学における先端医療のひとつとして、「海水浴」を推奨し、照ヶ崎海岸に海水浴場が開設され、明治 20 (1887) 年の大磯駅開業によって海水浴客が増え、政財界の重鎮たちの別荘も数多く建築され「政界の奥座敷」と呼ばれようになり8人の内閣総理大臣が居を構え、別荘・保養地としての大磯の名が全国に広まりました。

#### くまちあるきの流れ>

大磯駅を 11:00 にスタート、まずは駅前の観光案内所に立ち寄り「観光map」や「「観光施設案内パンフ」を 入手、道路のすぐ先に見える洋館(旧木下家別邸)を敷地内に入り外観から見学しました。

「大磯駅」は大磯町の中央に位置し、 1887年(明治 20年)開業の東海道本線の 駅。東京駅から約 70分。

三角屋根の地上駅舎を持ち、背後には山 が迫り、裾から頂上付近まで木々の中に住 宅が散在する景観となっています。



「大磯駅前洋館(旧木下家別)」は、貿易商木下建平氏が大正元年 (1912年)に別荘として建築したものとされ、小笹三郎の設計であると推察されています。

建物は、大磯駅前の相模湾を一望できる景観の良い場所に位置し、また敷地の形が三角形になっていることから、地元の人たちから「三角屋敷」とも呼ばれ、現在は大磯迎賓館の名でイタリアン料理の店となっています。築 100 年にあたる平成 2 4年(2012年) 2月に、国登録有形文化財(建築物)に登録され、同年 9月には景観法に基づく「景観重要建造物」に指定されています。



#### <不動の瀧>

駅前から海岸方向に緩やかな坂道を下り旧東海道の国道1号に出て、西の小田原方向に道路沿いを歩き、「明治記念邸園」内の「旧大隈重信別邸」と「陸奥宗光別邸」を外から見学し、別邸の広い庭を散策しました。

「明治記念大磯邸園」は、大磯町に明治期、我が国の近代化の歩みとして重要な取組である立憲政治の確立などに貢献した 先人の多くが邸宅や別荘を構えていましたが、近年、多くが老 朽化し、マンションに建て替えられたり敷地の一部が売却され るなどの開発により失われつつある邸園(邸宅と庭園)を貴重 な歴史的遺産として保存・活用されることが求められ、平成



30年(2018)に明治 150年施策の一環として、明治以降の近代化に功績のあった先人達の歩みを次世代に遺すため、「明治記念大磯邸園」の整備を進めることとしました。

邸園は、伊藤博文、大隈重信、西園寺公望、陸奥宗光という立憲政治の確立等に重要な役割を果たした人物にゆかりのある邸宅等が集中する場所で、現在「旧大隈重信別邸・旧古河別邸」と「陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸」を外部からの見学と庭園のみ開園しています。

「旧大隈重信別邸・旧古河別邸」は内閣総理大臣に2度就任し、日本初の政党内閣を組織した大隈重信が明治 30年に邸宅を購入した後一部改修し別荘として利用していました。現建物の主要な居宅部分は往時の姿を留めています。【庭園のみ公開】





「陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸」は伊藤博文内閣時に外務大臣に就任し、不平等条約である治外法権の撤廃に 尽力しました陸奥宗光が明治 27 年に病気療養のため、別荘を建築しました。現建物は、邸宅を譲り受けた古河家 により昭和 5 年に改築されました。【庭園のみ公開】





見学後さらに国道 1 号を道路沿いに小田原方向に歩き松並木を抜け、途中道沿いの湘南のしゃれた店や住宅などを見ながら、旧吉田茂邸(大磯駅より直線で約 2.3km)へ向かいました。





「松並木(東海道)」は旧東海道53次の松並木で、国道一号線下り大磯中学校前から小田原方向の道沿いで見る事が出来ます。

正月恒例の箱根駅伝のコースで、往路の選手達がここを走り抜けます。





本日見学の第一目的の旧吉田茂邸の正門に到着、庭の見学は無料ですが、大磯ガイド協会のガイドボランティアの方に1人100円で兜門(※登録有形文化財(建造物))をスタートに邸内の庭を一周約40分案内して頂きました。









説明によると、建物は 10,000 坪の敷地に木々茂る山を背後にして結界を作るように建てられているとのことで、自然を生かした景観構成となっています。

海の側迄広がる敷地は高台に位置し、すぐ下には西湘バイパスの道路があり、敷地から直接浜へ降りる階段もあります。眺めが良く、木々の間から伊豆大島や房総半島までも望め、相模湾・伊豆半島を背に日米講和条約締結の地、サンフランシスコと首都ワシントンに顔を向ける様に吉田茂像が建てられています。









邸内の庭の見学を終え、いよいよ邸内を見学(観覧料 510 円),二階の部屋の窓からは庭の木々の向こうに相模湾・箱根の山々越しに富士山を望むことができます。





建物は新数寄屋造りの創設者とし名高い建築家の吉田五十八の設計で、その細部までを身近で見る事が出来、 こんな機会は滅多に無いと、あちらこちら写真を撮ってしまいました。















「旧吉田茂邸」は大磯で最も有名な建物が、戦後内閣総理大臣を務めた吉田茂(1878-1967)が暮らしていた 旧吉田茂邸で、敷地面積は約 10.000 坪、邸宅は約 300 坪(※焼失前)です。

もとは明治 17年(1884)に吉田茂の養父・吉田健三が土地を購入し、別荘を建てたのが始りで、養父亡きあと吉田茂が邸宅を引き継ぎ、昭和 20年(1945)より大磯の邸宅を本邸として晩年を過ごしました。

2009 年 3 月 22 日に火災により、本邸が焼失してしまいましたが、焼失を免れた日本庭園や兜門の整備を進め、2013 年 9 月 22 日に、県立大磯城山公園の旧吉田茂邸地区として部分公開をしました。

戦前・戦後を通じて幾度かの増改築が施された吉田邸の中で、昭和 22 年に新設した応接間棟、そして昭和 30 年代後半に増改築した新館や玄関ホール、食堂などが大磯町によって再建(復元)され、2017 年 4 月 1 日より大磯町の施設として一般公開されています。この応接間棟以外の大部分は、吉田茂が自邸を外国の要人が宿泊できる迎賓館にしたいとの思いから近代数寄屋建築の創始者として名高い建築家・吉田五十八の設計に依頼したもので、伝統的な数寄屋造りとモダニズム建築の融合を確立させた五十八流の世界観が随所に見られます

遅い昼食を済ませ、近くのバス停まで歩き、大磯駅方向にバスで3停留所の旧島崎藤村邸近くまで移動。バス通りから道幅の狭い住宅街を進み、午後4時の公開終了時間が迫る旧島崎藤村邸にギリギリ到着、昭和の雰囲気漂う家屋と手入された庭の木々が残されています。







「旧島崎藤村邸」は文豪島崎藤村(1872~1943)が昭和 18 年 8 月 22 日大磯の地で 71 歳で永眠するまでの 晩年の 2 年を過ごした旧宅。昭和 16 年 1 月、大磯の祭り「左義長」を見に来た藤村が、温暖なこの地が非常に気 に入り、その春にはこの家に住むようになりました。町屋園と呼ばれる旧宅は三間の平屋建て民家で、外壁には 杉の皮、引き戸は大正ガラスが使われ小さい素朴な冠木門に割竹垣に囲まれた小庭。 カナメやモチの若葉、朝顔 や萩、湯河原から取り寄せた寒椿が花を咲かせる小庭の眺めは藤村の心の慰めで、この家を「静の草屋」と呼ん でいたそうで、簡素を信条とする藤村の気配りが今も感じられます。

海辺に向かい、だんだんと日が暮れだした照ヶ埼(海水浴場)でひと時を過ごした後、「新島襄終焉の地」や 「原敬大磯別荘跡地」の案内版などを見ながら移動し、最後に大磯港を見てまちあるきを終了しました、















#### く今回のまちあるきで>

大磯は今まで、東海道線の通過駅か、車で国道一号線を通過するだけで吉田茂の 旧邸宅が有ること、大磯ロングビーチ位しか知識がありませんでした。

今回、国道沿いに見たい目的の施設がある為、国道 1 号線(旧東海道)を中心に駅から旧吉田茂邸を往復したまちあるきになりましたが、江戸時代の宿場町の名残や明治時代から「政界の奥座敷」と呼ばれた建物や庭園が残り、歴史を感じると共に、どこか湘南の雰囲気も感じました。これは視覚のみならず、聴覚や嗅覚も働いている様です。

「まちあるき」を今回は何を目的にするかは大事ですが、実際に訪れた「まち」を それぞれがどう感じ、この「まち」らしさは何かを感じ取ることも景観を考える上 でヒントになると思いました。

復路、歩道を駅方向に歩く中、振り返ると一号線の道路中央にほんのり赤く山肌を 染めた富士山が大きく迫る姿が大変印象的でした。







# 景観と街路樹(街路樹の功罪)

### 石見茂夫

#### 1.概要説明

都市の景観の要素の一つとして道路に付帯する街路樹がある。昔から主要な街道には街路樹が植えられていて良好な景観要素の一つになっていた。一般的には街路樹は道路に並行して両側に植えられた並木状の樹木である。近代の道路は車道の他に歩道や中央分離帯が設置される他、交差点や駐車場の出入り口等の機能があり必ずしも左右対称にならない事例もある。

街路樹に使用される樹種は 110 年以上前(明治 40 年頃)に街路樹の急整備が行われた時に 10 の樹種が選定された。

イチョウ、ユリノキ、アオギリ、スズカケノキ、エンジュ、トチノキ、ミズキ、トウカエデ、アカメガシワ、トネリコが選定され植栽された。すべてが落葉樹であるが日本の四季を感じられるように選ばれたと推測できる。現在は地域の生育環境に合った樹木が選定されることが多く「県の樹木」「市の樹木」や、常緑樹のヤマモモ、クスノキ、シラカシ、ウバメガシ、クロマツ、アカマツ等の他に、カナリーヤシやワシントニャシ等のヤシ類も使われることもある。

街路樹として選定される条件として厳しい自動車の排気ガス等の環境負荷に耐えることが出来る樹種も優先して選定される。

# 2.街路樹の効果

#### A.景観的効果

街路樹を植栽することによる効果の大きなものは、 街並みの空間構成上から見て住空間の修景的な景観向 上や美しい並木が街や通りのシンボルやランドマーク になる。

特に幹線道路においては地域の特徴を街路樹によって景観演出する効果も期待できる。

(幹線道路の街路樹)

#### B.環境的効果

樹木による二酸化炭素(CO2)の吸収、自動車から発生する騒音の低減、緑陰ができる事によるヒートアイランド現象の緩和等の環境的効果が大きい。

騒音減少の効果は落葉樹より常緑樹の方が大きく住 宅が隣接する地域に採用される事が多い。



(常緑街路樹による騒音防止)

#### C.物理的効果

直射日光を遮り暑さを抑制する効果がある。厳しい気象環境になった時に強風や飛砂を軽減し寒冷地では吹雪の時の風雪よけの効果もある。街路樹による緑陰は環境的効果も大きく樹木が多く成長すると道路面が広く覆われさらに物理的な緑陰づくりに貢献できる。



(街路樹で広く覆われた路面)

#### D.交通安全効果

対向車のヘッドライトの光の影響を軽減することができ、歩車道分離をするためのガードレールの代用で車両の進入を防ぐ効果がある。市街地の道路は道路幅員に余裕が無いので、車道と歩道の間に街路樹緑地の緩衝を確保することが難しい事が多い。



(車道と歩道を分離する植栽)

#### E.他の公共施設との連接効果

道路に隣接する公園、役所、学校、保育園等並びに駅周辺に設置される自転車置場等と連携した施設整備の対象となる。公園等に繋がる緑道を含め緑のネットワーク整備に欠かせない重要な役割がある。



(隣接する中学校と街路樹)



(道路脇の投球場と街路樹)



(地下鉄駅隣接の駐輪場と街路樹)

#### F.経済的効果

植栽工事や枝の剪定や消毒作業等や落ち葉やごみ等の清掃作業の雇用促進効果がある。

#### 3.街路樹の弊害

#### A.景観的弊害

街路樹は植栽されるスペースに限度があり狭い場所での生育環境に成る事が多い。公園や広場等のように広い空間が確保されることは皆無であり、樹木の生育も本来の樹形で生育することが厳しく車や歩行者に支障の無い様に剪定を行う必要がある。樹木の選定を誤ると本来の樹形を維持できず不自然な形態になる事が多く、修景的な景観向上を目指しても美しい並木にならず街や通りの景観を壊すこともある。

街路樹が窓からの眺望を遮り樹木の葉っぱしか見えなくなった事例もある。

#### B.環境的弊害

街路樹につく害虫や病気による樹木への被害の他、樹木を守るための農薬散布等による環境汚染が考えられる。農薬や殺虫剤の散布作業は車の交通量が多い道路は夜間に行われることが多い。

#### C.物理的弊害

街路樹の効果として直射日光を遮り暑さを抑制できるが、マンションや住宅が近くに多くある地域だと住居への日照が遮られ日影になる事がある。冬に向けては落葉によるゴミが大量に発生して近隣を汚すことが多い。台風や強風により枝の落下や倒木の危険性があり、落ち葉が排水溝を詰まらせ冠水することもある。また落ち葉が原因の車やオートバイ、歩行者のスリップ事故も報告されている。台風シーズン前の剪定や伐採等のスケジュール管理に注意が必要である。降雪地域では雪による倒木なども考えられる。



(秋に成ると紅葉が美しくなるが落ち葉出る)

#### D.交通安全弊害

街路樹の枝葉により交通信号機、道路標識、道路案内板等が見にくくなり交通事故の原因になる事がある。 街路樹の剪定作業等の道路規制等により交通障害を起こす間接的な要因になる。街路灯の照明が遮られ道路が 暗くなり、高木街路樹だけでなく中低木の植栽の影から人や小動物の飛び出しの見通しが悪くなり交通事故の 原因となる。

#### E.経済的弊害

街路樹の剪定、消毒、清掃等の維持管理に掛かる費用が恒久に必要となる。特に街路樹の維持作業は交通規制等に伴うガードマン費用も掛かり高額な費用が掛かる。街路樹を植栽して数十年経過すると老化した樹木の植え替え等の費用が発生する。樹木の根による道路舗装への影響で道路舗装等の工事が必要になることがある。

F.その他の弊害火災時に街路樹が消防活動の放水に支障をきたした事例がある。またはしご車による救助活動の支障になる事がある。街路樹は大きく成長するとテレビ受信への影響も出ることがある。近年では街路樹の電飾照明を設置して集客する街路もあり、観光名所に成り多くの人や車が訪れて交通渋滞だけでなく騒音やゴミの問題まで起こっている。特異な例としては、ムクドリやカラス等の鳥類が大群で生息し糞害や騒音をおこしている場所もある。

2022年2月記

# くLFJブックレヴュー 75> 『物語 ウクライナの歴史-ヨーロッパ最後の大国』 黒川裕次著 2002年8月刊

斉藤全彦

恐らく世界の人々はウクライナという国がどこにあるかあまり知らなかったのではないか。ロシアのウクライナ侵攻があってウクライナという国が世界に明示された感がある。通常感覚ではウクライナという国はヨーロッパの西の果てにあるのどかな穀倉地帯というイメージである。そして、あの有名な映画『ひまわり』(伊、仏、米ソ連合作・1970年公開)がウクライナの大地であったとは。まさにあの地こそ首都キエフから南へ500キロほど行ったヘルソン州地域だそうだ。古代はスキタイ騎馬民族が活躍し、9世紀以降はキエフ・ルーシ公国という名称の国であり、「中世ヨーロッパに燦然と輝く大国であった」という。「最盛期のヴォロディーミル聖公の時代(978-1015)には、ヨーロッパ最大の版図を誇り・・・・彼の息子のヤロスラフ賢公はヨーロッパの義父と言われるほどであった」と中世史は述べている。我々東洋に住む人間はヨーロッパと言うとほぼルネサンスあたりから時代感覚を持っているが、いざヨーロッパの中世というとほとんどその姿が目に入ってこない有様だ。ところがその中世こそこのウクライナの地が大繁栄したのだという。

13世紀におけるモンゴルによる征服の後、これまで名目上残っていたキエフ・ルーシ大公国終焉を迎え、300年という長いモンゴル支配の時代に入るが、個々の諸公国はこれによって直ちに消滅したわけではなく、モンゴルに税を納める代わりにその存続は認められた。この時代には、エイゼンシュタインの映画で有名なアレクサンドル・ネフスキー公(在位 1252-62)などがこの時代を鳴らしたが、かのマルコ・ポーロ(1254-1324)もクリミアに支店を持っていたという。「キエフ・ルーシの総人口は、12から 13世紀初めには 700万から 800万人に達していたと推定されている」という。それほど人が集まるこの地は豊かな土地であり、南はビザンチン帝国を控える交通の要所でもあった。

しかし、「14世紀半ばにハーリチ・ヴォルイニ公国が滅亡してから、 17世紀半ばにコサックがウクライナの中心勢力になるまでの約300 年間、ウクライナの地にはウクライナを代表する政治権力は存在しな かった」という歴史が待っている。「この期間はウクライナにとり、 まったくの暗黒時代で空白の3世紀であったろうか」という疑問も湧 く。実は、この時期に単一の民族が、ロシア、ウクライナ、ベラルー シという三民族に分化するという。即ち、それぞれにロシア語、ウク ライナ語、ベラルーシ語も生まれ、ウクライナというアイデンティテ ィ一形成もこのころかと思える。その後、ポーランド、リトアニアの 支配下になったりするが、民族のウクライナは存続し、ギリシア正教 とカトリックの折衷版であるユニエイトなるウクライナ独特の新しい 宗教も生まれることになる。ところで、「ウクライナ」という語が文 献に現れてくるのは、12~13世紀である。その意味するところは、 「辺境地帯」と偏見視されることがあるが、もともとは単に「土地」 とか「国」を現わす普通名詞であったと考えた方が自然に思われる。 「辺境」という名称が使われるとするなら、ロシアがふさわしく思わ れる。ウラジーミル・プーチンよ!そう思わんかね!



# くLFJブックレヴュー 76> 『白井晟一入門』 渋谷区立松涛美術館編 青幻舎 2021年11月刊

斉藤全彦

哲人建築家という名称を冠せられることが許されるなら、それはル・コルビュジエでもなく丹下健三でもなく、白井晟一(1905-1983)その人であろう。彼は建物は当然のこと家具や庭やその他もろもろの創造活動にかかわっている。書道家としても名を馳せ一家をなしている程である。その白井晟一を哲人と言わしめているにはそれなりの過去を持っている。京都高等工芸学校時代に講師であった哲学者の戸坂潤に出逢い、哲学を勉学すべくドイツ留学先としてハイデルベルク大学に入学している。当時のドイツ哲学界、ことにハイデルベルグ大学は、現象学を率いていたエドムンド・フッサールを筆頭に、マルティン・ハイデガー並びにカール・ヤスパースという 20 世紀の実存哲学の根幹となる思潮の流れの中心に遭遇していたことになる。白井晟一の創造活動を語るとき、ハイデガー並びにヤスパースの哲学抜きにしてはありえないだろう。

それでは彼が哲学者にならずに建築家になったのはなぜだろうか。恐らく私の類推ではあるが、26歳の時、パリでのアンドレ・マルローとの出合いがそのきっかけではないかと思われる。23歳から26歳の3年間哲学を勉強した後に、偶然、アンドレ・マルローの生き方を見るにつけ、学者という殻に閉じこもる生き方ではなくマルローのように活動的に人生を送るべきではないかと考えたのではなかろうか。では何をやるか。たまたま31歳の時、美術家の義兄の自宅とアトリエの設計を引き受けたことから、その転機が訪れてきた。恐らく彼の頭脳の中で何かがひらめいたのではないか、これが俺が求めてきたものだ、と。美は解釈するものではなく、創り出すものだ、と。即ち、白井晟一にとって建築は独学であり、独学であったからこそ、それまで勉強してきた哲学を大いに生かせることができたのであろう。

『〈現代の建築家〉白井晟一』SD編集部編(鹿島出版会)でも解る通り、31歳から建築活動を始め78歳の死を迎えるまで多くの建築物を創造してきたが、彼の建築創造物は大きく「空間と時間」という二つの観念に基づくことにその特徴があるように思われる。一つは空間として水平への広がりである。群馬安中市にある公共建築としての『松井田役場』(1955年)、茨城日立市にあるキリスト教学園の『サン・セバスチャン館』(1972年)、そしてまた教室としての使用が主眼に置かれ礼拝堂を兼ねる『サンタ・キアラ館』(1974年)、『静岡市立芹沢佳介美術館』(1981年)がそれである。以

上の建造物は、その空間は徹底しており、まさに白井晟一の空間観念に基づいていると言えよう。そして、もう一つは時間観念に基づくものとして垂直への願望である。東京中央区にある『親和銀行東京支店』(1963年)、長崎佐世保にある『親和銀行本店』(1975年)、そして有名な東京港区にある『ノアビル』(1974年)である。これらの天に向かってそびえる建造物たちは白井晟一の創造物に他ならない。空間としての水平への広がりを建造物にしたものはたくさんあるが、やはり白井晟一の個性は他にはない何者かを持ち、時間としての垂直へ限りなく伸び行く建造物は、唯単に高い建物が多くある中でその個性は白井晟一の独創性を放っている。



〒150-0031

東京都渋谷区桜丘町 14-5-502

TEL: 03(3780)3814 FAX: 03(6379)6681

E-mail: info@keikan-forum.com

URL: https://www.keikan-forum.org

